

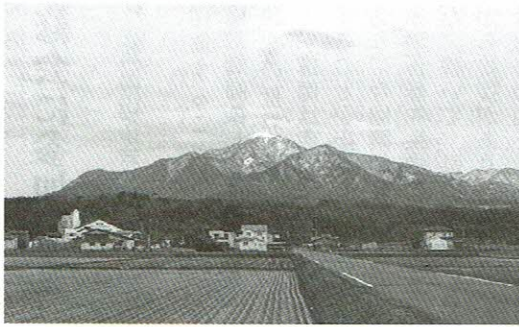
# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 阿部信一  
TEL 025-273-1572

事務局 井村健一  
新潟市北区すみれ野2-10-12  
TEL 025-259-7152

会報・編集委員会代表  
浅野亘寛  
長岡市金町2-2-17  
TEL 0258-52-3998



27日は好天、予定通り「青海省登山協会兄弟協定20周年記念登山」で玉珠山塊の未踏峰(5,828m)登山に挑戦された登山隊を代表して片桐副会長より記念式典および登山の様子についてスライドを用いて講演をしていただきました。3名の隊員と青海省

## 親睦登山

総務委員長 宮崎 幸司

10月27日(土)・28日(日)に恒例の県山協親睦登山が上越市水野の「水野集落センター」を講演会・宿泊会場とし米山登山で実施されました。

講演の後、会場を懇親会場に設定を変え阿部協会長の乾杯の発声で懇親会の開始となり、各自持参の酒・肴がそろって賑やかな宴会となりました。

また柿崎山岳会・高田ハイキングクラブの方々のご協力によりトン汁を用意していただき大変盛り上がりました。翌日は7時出発し登山開始することの連絡の後、中締め契機に就寝する人、二次会に移る人とわかれて宴会は続いた模様です。

28日は予報通り朝6時ころから雨が降り始め、6時30分ころにはかなりの降り方に、登山も懸念されたが、出発予定の7時ころには小やみとなり林道終点の登山口では雨は上がり雨具なしで登山開始した。晩秋の山歩きを楽しみながら各自のペースで歩き1時間半ほどで山頂に到着した。しばしの休憩で同じコースを

下山し9時半ころには順次登山口に戻った。今回の参加者は講演会35名・懇親会30名・登山15名でした。

参加いただいた皆様お疲れ様でした。ご協力いただいた柿崎山岳会様・高田ハイキングクラブ様有難うございました。

今回文書によるご案内が大変遅くなりご迷惑をおかけしました。

### 賛助会員入会 ご入金のお礼

次の皆様から、ご入会、ご入金を頂きましたので、ご報告させていただきます。

\*10月28日~11月25日現在のご入会、ご入金状況です。

浅野亘寛(朝路の会) 松尾 弘(矢筈山岳会)

(敬称略、順不同)

新潟県山岳協会 会長・阿部 信一  
理事長・遠藤 俊一  
総務委員長・宮崎 幸司

### 登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134  
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

### 登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



### パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

# 第55回自然保護研修会に参加して

新潟山岳会 嶋原 哲也

平成24年10月20日(土)から21日(日)にかけて、自然保護委員会による第55回自然保護研修会に参加させていだいた。会場は村上市高根の天蓋高原にある、三面山岳会の遠山実氏の山小屋「悠遊山荘」で、翌21日には天蓋山と吉祥嶽の登山が予定されていた。

20日、非常によい秋晴れの中、定刻の15時より少し早く伊藤副委員長の司会で始まり、本間委員長から、今回で55回目になる、遠山さんのすばらしい山小屋をお借りして



橋からの天蓋山

15時5分に文学博士 赤羽正春先生による「サケ漁とブナと熊」と題された講演が始まった。赤羽先生は遠山さんとも親しく、村上の校長先生を退職後、民族史、考古学などをご研究されており、熊、鮭、舟をテーマとした著書を書かれておられ、白鳥の文化にも詳しいそうである。講演は北から日本に入ってくる文化の研究のためにシベリア

のブリアートへ調査に行かれており、そのときのスライド上映とその解説をお話しいただく形で、シベリアは元々30以上の北方モンゴロイドの少数民族が居住しており、そこへロシア人が入ってきたこと、アルセネボ村の原住民スネゲ民族の文化について、日本の熊文化と繋がりがあり熊は神聖なものであるとの考え方、トウポリと呼ばれるポプラの木で作った丸木舟が大切な交通手段であり分水嶺は2人で運んでわたること、それを作る道具である鉞(ちような)は丸木舟の文化で共通しており西太平洋にも同じようなものがあること、秋のケタと呼ばれる白鮭の漁の話、その他現地での食事の写真とその他のお話などを伺った。熊の話では、北越雪譜に書かれてある伝説と同じものがシベリアにもあり、越後へ直接入ってきている可能性が高いこと、白鳥の話でも、世界中にある白鳥処女伝説(羽衣伝説)というものがブリアートにもあり、シベリアが起源であると思われるのお話があった。柳田那夫によって南

は紹介されているが、北からの文化は意外と研究がされていなくて、日本の文化の半分以上はシベリアに元がある、というお話しをいただいた。引き続き講演に対する質疑が行われたが、次第にそれぞれの意見交換の場となった。今年は里で熊の出没が多数報告されているが、遠山さんから、今年の熊の様子についてお話があった。通常、山の奥のほうに力の強い熊が住み、里に近いところに力の弱い母子熊が住み、猟師に撃たれるのは母熊が多いそうであるが、今年はオス熊も里に現れているためよほど山に餌がないのであろうが、という内容であった。

最後に司会の伊藤副委員長から片桐副会長へ中国遠征のお話をリクエストしたが、800m登ることがとても大変である、というさわりだけのお話で、あとは翌週の親睦登山の時に報告があるためお楽しみということであった。16時20分伊藤副委員長により1日目の研修は締められた。続いてお楽しみの懇親会では、炭火でじっくり焼かれた

のブリアートへ調査に行かれており、そのときのスライド上映とその解説をお話しいただく形で、シベリアは元々30以上の北方モンゴロイドの少数民族が居住しており、そこへロシア人が入ってきたこと、アルセネボ村の原住民スネゲ民族の文化について、日本の熊文化と繋がりがあり熊は神聖なものであるとの考え方、トウポリと呼ばれるポプラの木で作った丸木舟が大切な交通手段であり分水嶺は2人で運んでわたること、それを作る道具である鉞(ちような)は丸木舟の文化で共通しており西太平洋にも同じようなものがあること、秋のケタと呼ばれる白鮭の漁の話、その他現地での食事の写真とその他のお話などを伺った。熊の話では、北越雪譜に書かれてある伝説と同じものがシベリアにもあり、越後へ直接入ってきている可能性が高いこと、白鳥の話でも、世界中にある白鳥処女伝説(羽衣伝説)というものがブリアートにもあり、シベリアが起源であると思われるのお話があった。柳田那夫によって南

は紹介されているが、北からの文化は意外と研究がされていなくて、日本の文化の半分以上はシベリアに元がある、というお話しをいただいた。引き続き講演に対する質疑が行われたが、次第にそれぞれの意見交換の場となった。今年は里で熊の出没が多数報告されているが、遠山さんから、今年の熊の様子についてお話があった。通常、山の奥のほうに力の強い熊が住み、里に近いところに力の弱い母子熊が住み、猟師に撃たれるのは母熊が多いそうであるが、今年はオス熊も里に現れているためよほど山に餌がないのであろうが、という内容であった。

大きな岩魚をご馳走になり、その味は実に美味しく、楽しい時間はあっという間に過ぎ去った。翌日の登山は雨天のため残念ながら7時に中止決定となり、8時前に解散した。シベリアの自然や民族、文化などは意外と知らないことが多く、赤羽先生の大変勉強になり面白かったです。自然保護委員会の皆さん、遠山さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。



www.hakkaisan.co.jp

八海醸造株式会社 新潟県南魚沼市長森1051番地 お客様相談室 025-775-3866

## 沢登り報告・ゆきみ山の会沢登り技術研修会

## 湯檜曾川東黒沢

ゆきみ山の会 田下 桂

1. 日 程：平成24年9月9日（日）
2. 天 候：曇 のち 晴れ
3. 参 加 者：五十嵐[CL]、永田[SL]、吉沢(正)、笹川(修)、佐藤(真)、渡辺(郁)[会計]、高野(忠)、原(貴)、高野(康)、古城、関川(翔)、山田、田下[記録]…【合計 13名】
4. 交通手段：自家用車3台（4名×3台=12名、1名は現地集合）
5. 経 費：4,300円/人（交通費、風呂500円含む）
6. 行 程（全行程 14時間）

	5:00	ふるさと村河川敷P 出発（途中、越後川口SAで休憩、谷川岳SAで朝食）
	7:15	水上・谷川岳IC下車（高速料金は新潟西ICから片道1,950円=休日割引）
	7:30	土合P 到着（河川敷Pから片道175km）
	8:00	入溪
上り 2時間 55分	8:30→9:20 (50分)	ハナ毛 (25mナメ滝) …若手グループへザイルワーク講習を実施
	9:30	白毛門沢 到着…ここから天候が回復し、陽射しが出てきた
下り 4時間 10分	9:50→10:20 (30分)	10m3段滝…滝を上ってから休憩。ザイルワーク座学を実施
	10:25	東黒沢二俣 到着
	10:45	8m2段滝 到着
	10:55	8m2段滝を上った所で折返し
	10:55→11:55 (60分)	8m2段滝でザイルワーク講習 = 懸垂下降技術の訓練①
	12:20→12:40 (20分)	10m3段滝でザイルワーク講習 = 懸垂下降技術の訓練②
	13:10→13:50 (40分)	白毛門沢で昼食
	14:00→14:40 (40分)	ハナ毛 (25mナメ滝) でザイルワーク講習 = 懸垂下降技術の訓練③
	15:05	土合P 到着
	15:45	水上温泉の寶ホテルで入浴（通常1,000円が割引券で500円）
	16:40	水上IC 出発（途中、越後川口SAで休憩）
	19:00	ふるさと村河川敷P 到着、総評をいただき解散

前日夕方の新潟市は、激しい風雨に見舞われ、翌日の天候が非常に不安でしたが、当日の朝は多少肌寒かったけれど降雨はありませんでした。途中、天候が回復し陽射しが出てきたおかげで水面が反射し、光輝くとても美しい姿を我々に見せてくれました。

今回は、若手を中心に技術習得を目的としたザイルワークにチャレンジさせて頂きました。ザイルワークでは、支点の取り方、エイト環・オートブロックでの下降に必要な、手さばき・足さばき等さまざまな場面で教えていただきました。また、実践では思ったようなザイルさばきが出来ず、8m2段では最後の3m程度の絶壁で私を含め（ほぼ）落下する人もおり、下降の難しさを改めて感じました。とは言え、この緊張感と達成感は、とても満足いくものであり、是非次回もチャレンジしたいという気持ちになりました。

また、若手グループが交代でチームの先頭に立って、皆さんを誘導するという訓練もさせて頂きました。普段、（私は）皆さんの後についてボーっと歩いていましたが、先頭に立つという責任感はとても大きなもので、コース取りの判断や全員の行動を把握するという任務を終えたときは、短時間でしたが疲れがどっと出ました。改めてリーダーの大変さを認識しました。

登りの途中、先陣を切って古城さんの沢壺での肩まで浸かる楽しいハプニングや、下りは皆さんが童心に返ったようにキャニオニングを楽しんでいる姿があり、全行程、緊張と興奮に満ちた沢登りでありました。

リーダーの五十嵐さんをはじめ、メンバーの皆さん、運転をいただいた皆さん、大変ありがとうございました。

# 最新の気象状況把握が冬山登山の命綱

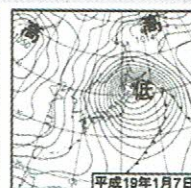
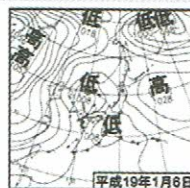
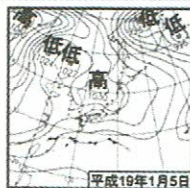
～登山の数日前から、常に最新の気象情報で状況を確認～

日本付近が高気圧に覆われていれば山でも比較的穏やかな天気となりますが、このような状態が長続きすることはほとんどなく、平地とは比較にならないくらい急激な変化をします。特に西高東低のいわゆる冬型の気圧配置では、激しい風や雪、急激な気温低下が起こります。

例として平成19年1月5日から7日の毎日9時の天気図を見てみましょう。5日は高気圧に覆われ晴れのところが多く気温も高くなりましたが、6日から7日にかけて低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過し、その後強い冬型の気圧配置となり、各地で雨や雪、強風となりました。さらに、大雪のときだけでなく、このような冬型の気圧配置がゆるんだ後、穏やかな天気でも気温が上

がったり、雨が降ったりすればなだれの危険があります。山岳地域の斜面では注意報が発表されていなくてもなだれが発生することがありますので常に注意が必要です。

登山の数日前から天気図や積雪状況などを確認し、また、登山を始めてからも常に最新の気象情報を利用して、どのような天気になるのかを把握することが必要です。



## 編 集 後 記

▲新聞の報道に気をつけていると、自然に関する記事も多いのに気づく。

例えば日本一長い信濃川や流量の多い阿賀野川を有する新潟県は、多くの水生植物を育ててきた。しかし現在は水生植物は急激に減少しているようだ。世界的にみても破壊が最も進んでいるのは湿地だという。100年の間に世界の湿地の50%、日本では60%の湿地が失われたとの報告もあり、県内でも開発や埋め立てのせいで減少の傾向にあるようだ。すでに、県内の水生植物110種のうち、半数以上の65種が絶滅危惧種に指定されている。水生植物も二酸化炭素を吸収し、酸素を放出するだけでなく、魚のすみかや、営巣場になるなど、多様な生態系を保護するには欠かせない。また豊かな広大な水田と豊富な排水路なども多くの生物にとって大事な環境だ。▲近所の青物市場から泥つきの長ネぎを買ってきた。白い部分を5cmくらいに切り、美味い中身がツルリと出ないように横に2、3か所包丁で切れ目を入れて、焦げ目をつけたものに、塩をふって食べるのが好きなのだが、その焼ネぎをつかって肉の「うま煮」を作ってみた。肉は薄切りでもいいのだが、豚バラのコロを5mm厚位にカット（1人前4～5枚）して、たっぷりの日本酒をふりかけて30分位おく。長ネぎは5cm位にカット（一人前1本）してフライパンで焦げ目をつけて別にしておく。長ネぎの青い部分は中からのトロリとした露がうま味と栄養がタップリだから、ザクザクと切ってやはり別にしておく。油をひかないフライパンを良く熱して直前に軽く塩、コショウをした肉を軽く焦げ目をつけ、ネぎの青い部分も入れて水をヒタヒタに加える。砂糖、醤油、ショウガを少々加え、15分位煮ればよい。好みでゴマ油や酢味を加えても良い。自分の好みの甘辛に仕上がっていたら、水溶きカタクリで少しトロミをつけながら、焼いておいた長ネぎを入れてかきまぜて出来上がり。あまり煮込むと肉がかたくなる。焼きネぎの香ばしさと肉にからんだネぎの青い部分の旨味がなんとも言えない。

会報・編集：浅野

Always Security OK

# ALSO

新潟総合警備保障株

〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20

TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第552号 JATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員  
本社 新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

□長岡営業所 〒940-0064 長岡市幸町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123  
二級旅行業副都立 中島 誠

□新潟営業所 〒950-0918 新潟市栄山3丁目2番11号 ☎ (025)246-2266  
二級旅行業副都立 中島 誠